

科目名	物質工学ゼミナール I	英語科目名	Seminar I	
開講年度・学期	平成 27 年度通年	対象学科・専攻・学年	専攻科物質工学コース 1 年	
授業形態	演習	必修 or 選択	必修	
単位数	2 単位	単位種類	学修単位 (30+15) h	
担当教員	原則として特別研究の指導教員	居室 (もしくは所属)	電気・物質棟 3, 4 階, 物質工学実験棟 1 階, 専攻科棟 4 階	
電話		E-mail		
授業の到達目標		授業到達目標との対応		
		小山高専の教育方針	学習・教育目標 (JABEE)	JABEE 基準要件
1, 速報, 原著論文, 総説, アブストラクト等の区別ができ、その役割を説明出来ること。		⑥	E	d-4, f, g
2, 専門語彙を 300 語以上増やすこと。		⑥	E	d-4, f, g
3, 主語, 述語, 目的語, 補語の区別、および品詞の区別がつくこと。		⑥	E	d-4, f, g
4, 英和辞典を自分で引いて、発音記号から正確な発音ができること。		⑥	E	d-4, f, g
5, 現在 (present), 過去 (past), 未来 (future) の時制 (tense) を区別できること。		⑥	E	d-4, f, g
6, 論理的な日本語訳ができること。		⑥	E	d-4, f, g
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法				
達成目標 1~6 : スクールワーク (音読、翻訳、意味の説明) 70%, ホームワーク (予習復習のノートの内容) 30% において 6 割以上の得点により達成とする。				
評価方法				
内容に対する理解度または運用能力が 60%以上の成績で達成とする。				
授業内容	授業内容に対する自学自習項目		自学自習時間	
指導教員のもとで選定した特定分野やテーマに関する外国語文献の音読、翻訳を行い、その内容を説明させる。 1, 受講した学生が割り当てられたパラグラフ毎、あるいはセンテンス毎に音読、翻訳を行い、その内容を説明する。 2, 学生が行った音読、翻訳の誤りを担当教員が訂正し、内容を分かりやすく講義する。 3, 読んだ英文に関連した専門の内容について担当教員と議論する。  授業 : 各自の分担の箇所を音読、翻訳し、意味を説明する。他者の音読、翻訳、説明にも耳を傾け、自分が予習してきた内容と比較する。教官の説明によって自分の誤りを訂正し、疑問点があれば教官に質問する。	予習 : 少なくとも次回の授業で進むと考えられる範囲を 3 回以上音読し、分からない単語の意味とその発音記号を単語ノートに記録する。日本語訳をノートに書き、論理的な文章になるまで手直しする。  復習 : 授業での内容を反復学習し、新しく学習した専門用語を記憶する。授業で進んだ部分の音読を少なくとも 3 回行う。			
自学自習時間合計			15	
キーワード	英語、専門用語、音読、読解			
教科書	各担当教員が選択			
参考書	中村喜一郎、青柳忠克著「やさしい化学英語」オーム社(1989) 湊宏著「化学英語」東京化学同人(1978) 千原秀昭ら「化学英語の活用辞典」化学同人(1987) 玉虫伶太ら著「エッセンシャル化学辞典」東京化学同人(1999)			
カリキュラム中の位置づけ				
前年度までの関連科目	化学英語			
現学年の関連科目	応用英語 I, II			
次年度以降の関連科目	ゼミナール II, III			
連絡事項				
理解が困難な場合は、その都度相談に応じる。予習・復習は確実にを行うこと。				
シラバス作成年月日	平成 27 年 2 月 27 日			